



社会的ニーズに応えた多様な分野のカリキュラムで、
福祉の現場における複合的な課題解決に向けて自らを高めていきます。

主な担当教員（五十音順） >>> 教員紹介は本学ホームページで詳しく掲載しております。



三浦 剛 先生
（研究科長）

専門

障害者福祉／社会福祉調査

障がい児者の地域生活支援、社会福祉実践の評価と数量化、社会福祉専門職養成・研修等の研究をしています。著書・論文：「発達障がい児の早期療育システムにおける保健とソーシャルワーク―職種間連携と発達支援としての統合―」日本保健福祉学会誌、2013 他



元村智明先生
（専攻主任）

専門

日本近現代福祉史

近現代日本の「福祉」概念と社会福祉の成立について追究しています。著書・論文：編著『日本の社会事業―社会と共同性をめぐって―』（科学研究費補助金）社会福祉形成史研究会、2010年および共著『博愛社の史的研究』六花出版、2023 年他



阿部裕二 先生

専門

社会保障／公的扶助

国民の生活問題に視点をおきつつ、社会保障の体系化や総合化、多様化する貧困概念と生活実態に即した生活困窮者支援のあり方、地域における居場所づくりなどをテーマに研究を進めています。著書・論文：『格差社会論（第3版）』同文館、2023 他



石附 敬 先生

専門

高齢者福祉／社会老年学

重度要介護高齢者の在宅支援、認知症スティグマの低減方策など、高齢者福祉領域における利用者や家族支援に関わる研究に取り組んできました。著書・論文：「地域包括ケアにおける重度要介護高齢者の支援」日本老年社会学会、2018 他



大石剛史 先生

専門

地域福祉／福祉教育

地域の中で、人々がケアしあいながら共に生きていく社会（ケアリングコミュニティ）のあり方を実践的・哲学的に研究しています。著書・論文：『ケアリングコミュニティの理論―社会福祉の新しい地平を拓く地域福祉のメタ理論―』学文社、2024



狩野俊介 先生

専門

精神保健福祉／臨床ソーシャルワーク

精神医療・精神保健領域におけるソーシャルワークに関連する支援方法として意思決定、アセスメント、対話、メンタルヘルスリテラシー教育等をテーマに、実践的に量的研究および質的研究を行っています。著書・論文：『危機がチャンスに変わる クライシス・プラン入門：精神医療・保健・福祉実践で明日から使える協働プラン』中央法規出版、2024 他



齋木しゅう子 先生

専門

内部障害

運動療法実施時には確実なリスク管理の実施下で安全で効果的な運動療法の実践が求められ、内部障害の病態を理解し、急性期～維持期へと経過する中でリスク管理と安全で効果的な運動処方の実践は、心身機能や活動量向上を促し QOL の向上につながると思われ、研究をすすめている。著書・論文：Changes in serum hypoxanthine levels by exercise in obese subjects (Metabolism、2000)



佐藤善久 先生

専門

作業療法／障害科学／教育学

従来は高齢者福祉施設ケアや介護保険制度と日常生活の支援、生活における作業の意味を課題としていましたが、近年は人材育成や教育、学科作業療法をテーマにしています。著書・論文：『作業療法参加型臨床実習 その理念と実践』医歯薬出版、2023、「作業療法教育評価の課題とこれから」作業療法教育研究、2021



菅原好秀 先生

専門

権利擁護と法／リスクマネジメント

意思決定支援など利用者の「権利擁護に必要な法制度」、介護事故など利用者の「リスクマネジメント」をテーマに研究しています。代表著書・論文：『リスクマネジメントと福祉』建帛社（単著）、2026 他



竹之内章代 先生

専門

女性・児童・家庭福祉

認定社会福祉士制度スーパーバイザー。知的障がい児者の地域生活支援のため家族への視点や地域における支援システムの必要性について研究しています。著書・論文：「地域における多機関が連携した就学支援の実践」発達障害研究、2016 他



田中 尚 先生

専門

ソーシャルワーク

認定社会福祉士制度スーパーバイザー。ソーシャルワーク理論における実践での応用とその評価に関する研究を行っています。著書・論文：「スクールソーシャルワークの展開の今日的意義」岩手県立大学社会福祉学部紀要（第15巻）、2013 他



萩野寛雄 先生

専門

政治学／行政学／
地方自治／社会福祉学

福祉レジャーやフィンランド福祉国家を研究。著書：『新世界の社会福祉 北欧』『New Ways of Promoting Mental Well-Being And Cognitive Function』『現代日本におけるアジア論の地平』他

児童、高齢の方、身体や精神に障がいをもつ方の心理や行動、介護のあり方等ミクロ面から、地域福祉や社会保障、福祉政策等マクロ面まで、幅広い分野での研究指導体制が整っています。社会福祉に関する分野の理論、制度・政策、実践を修得し、諸問題を解決するための研究力や実践力を身につけます。

授業科目一覧 修了要件：総計 30 単位以上修得 ※1

	授業科目	配当年次	単位数			履修方法 P.4 参照	備考
			必修	選択必須	選択		
研究指導科目	修士論文研究計画法概論 ※4	1 ※3	1			SR	4 科目 7 単位必修
	社会福祉学研究演習 I	1 ※3	2			SR	
	社会福祉学研究演習 II	2	2			SR	
	研究指導（論文指導） ※4	1・2	2			SR	
共通基礎科目 ※2	社会福祉原論	1・2		2		SR	1 科目 2 単位以上 選択履修
	ソーシャルワーク論 ※4	1・2		2		SR	
	ソーシャルワークリサーチ・研究方法論 （実践研究・実証研究の方法）	1・2		2		SR	2 科目 4 単位以上 選択履修
	社会福祉歴史研究・学説史研究の方法	1・2		2		SR	
	情報解析方法論	1・2		2		SR	
	質的研究方法論	1・2		2		SR	
	福祉プログラム開発と評価 ※4	1・2		2		SR	
選択科目	生活困窮者支援と貧困研究 ※4	1・2			2	SR	9 科目 17 単位以上 選択履修
	社会福祉法制・権利擁護研究 ※4	1・2			2	SR	
	子ども・家庭と女性福祉研究 ※4	1・2			2	SR	
	高齢者福祉研究 I ※4	1・2			2	SR	
	高齢者福祉研究 II（認知症ケア研究） ※5	1・2			2	SR	
	障害者福祉研究 I ※4	1・2			2	SR	
	障害者福祉研究 II（基礎的理解と臨床）	1・2			2	SR	
	精神保健福祉研究	1・2			2	SR	
	医療福祉研究 I ※4	1・2			2	SR	
	医療福祉研究 II（地域連携・多職種連携）	1・2			2	SR	
	地域福祉研究 ※4	1・2			2	SR	
	福祉経営・マネジメント研究 I	1・2			2	SR	
	福祉経営・マネジメント研究 II（リスクマネジメント研究）	1・2			2	SR	
	国際福祉研究	1・2			2	SR	
	身体機能障害特論	1・2			2	SR	
	特別研究講義 I	1・2			1	SR	
	特別研究講義 II	1・2			2	SR	
	実践事例検討とスーパービジョン	1・2			2	SR	

※1 修了要件は、研究指導科目 7 単位、共通基礎科目 6 単位以上、選択科目 17 単位以上で、合計 30 単位以上を履修すること。

※2 共通基礎科目で規定の単位以上修得した単位は、選択科目の単位数に含めます。

※3 1 年目に単位修得が必要です。

※4 認定社会福祉士研修認定科目です。認定されるにはスクーリングと同一年度での単位修得が必要です。研修認定科目としての単位数については P.39「よくある質問」を参照。

※5 2027 年度に教員の変更を予定しています。



心理的支援を必要としている人びとを援助できる人材の育成。

さまざまな心理学領域の研究活動を通して、個人から社会の広義の福祉に
幅広い心理的知見を持ち心理的援助・実践する力を高めます。

さまざまな心理学の領域について、文献研究や演習を通して心理学理論の理解と問題解決・研究の力を高め、自らの研究課題について心理学の研究法に則り研究を進めます。これらの活動を通して、発達支援、コミュニケーション、こころの健康、学校・家庭教育、問題行動の生起や改善、高齢者の心理等広く学び、心理的支援を必要としている人びとに対して実践的に支援する知識と技術、考え方の修得をめざします。

主な担当教員（五十音順） >>> 教員紹介は本学ホームページで詳しく掲載しております。



佐藤俊人 先生
(専攻主任)

専門

発達心理学／福祉心理学

保健師、看護師、教諭、保育士、人事担当者などと連携した実務経験を踏まえ、心理学を広く人のウェルビーイングに応用する方略を検討しています。著書・論文：『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019 他



小林万洋 先生

専門

人格心理学／心理査定
／司法・犯罪心理学

矯正施設に収容されている当事者の方の再犯リスク管理とそのウェルビーイングに資するアセスメントの在り方のほか、外国にルーツを持つ若年犯罪者の処遇と社会的統合について研究しています。著書・論文：『新訂 矯正用語事典』東京法令出版、2019 他



武村尊生 先生

専門

臨床心理学／リエゾン精神医学

総合病院精神科や麻酔科・疼痛緩和における心理学的支援や、高度専門職種として心理職が果たすべき役割について研究を行っています。著書・論文：『精神科リエゾンチーム活動指針（日本総合病院精神医学会治療指針9）』星和書店、2019 他



中村 修 先生

専門

健康心理学

主に青年期から成人期への移行という発達の問題に対して、ストレス及びストレスコーピングという視点から理解を深めようとしています。著書・論文：『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019 他



中村恵子 先生

専門

学校心理学

不登校に対する別室登校法の開発が研究テーマです。インタビュー調査での質的研究からモデル生成を行います。著書：『不登校支援の学校心理学プラクティス：学校と適応支援教室で活用する集団社会療法と別室登校法』ナカニシヤ出版、2022 他



平川昌宏 先生

専門

発達心理学

「気になる」子や障がい児に対する保育、さらにはそのような子どもたちも含めたクラス作りの支援や子どもの描画活動とその発達に関してシンボル発達の観点から研究を行っています。著書・論文：『シードブック 保育の心理学』建帛社、2019 他



吉田綾乃 先生

専門

社会心理学

対人コミュニケーションにおける情報処理過程とワーキングメモリキャパシティの関連について研究を行っています。論文：「政治的イデオロギーの個人差と極性化に関する研究動向」感性福祉研究所年報（第23号）、2022 他



授業科目一覧 修了要件：総計 30 単位以上修得

授業の科目名と概要		担当教員名	配当 年次	単位数		履修 方法 P.4 参照
必修						
【必修科目】 12 単位必修						
福祉心理学特論 レポート2本+在宅レポート試験で単位修得		佐藤俊人	1・2	4		R
福祉の現場において心理的支援を考える際に重要になる「対象者の無気力状態」の発現のメカニズムを理解し、その予防と具体的な対処法を修得する。						
福祉心理学研究法特論 レポート2本+スクーリング(自宅で動画+本学で実技2日間)で単位修得		柴田理瑛	1※1	2		SR
心理学に関する研究課題を自ら設定して心理学研究法を用いて研究を進めていくために必要な知識・技術を修得する。						
福祉心理学特別研究(修士論文作成)		演習科目 担当教員	2	6		SR
レジュメ提出3回+面接指導3回(本学・1～2回リモート)+通信指導+修士論文提出+口述試問で単位修得						
原則として、履修した選択演習科目に対応した各自の研究テーマや問題意識を研究に結びつける。先行研究の文献研究により扱う要因を整理し、仮説を立て、それに応じて実験、調査、面接や観察等の手法を通してデータを収集して統計的分析をした上で考察する。何らかの問題を抱えている人に対する心理的支援を考える場合に、実学的な提案に結びつくように、結果や考察をどのように応用できそうかを考えながら研究計画を立てる。詳細は P.30～31 を参照。						
選択						
【選択講義科目】 レポート2本+在宅レポート試験で単位修得 16 単位以上選択履修						
心理学的な理論と支援		文献研究を通して、福祉、教育、医療、司法をはじめ、日常生活の中で心理学理論がどのように関連づけられているかを学び、問題意識を高めると同時に、演習科目、特別研究への関心を高める。7つの心理学領域に関する講義が準備されている。それぞれの領域における研究テーマはおおよそ以下のようなものである。				
心理学的な理論と支援 (発達心理学)	発達心理学の基礎的理論と知見の理解と応用	平川昌宏	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (学校・教育心理学)	学校臨床の実践的課題の理解と問題解決理論の修得	中村恵子	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (社会心理学)	社会的認知の観点に基づく人間行動の理解	吉田綾乃	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (臨床心理学)	力動的心理療法の過程とその背景となる理論を理解する	武村尊生	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (健康心理学)	健康をもたらす要因は何か：個人特性と環境要因、及びそれらの相互作用	中村 修	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学の視点と更生支援の考え方	小林万洋	1・2		4	R
心理学的な理論と支援 (高齢者心理学)	生涯発達心理学の視点から高齢者や認知症者に関連する理論と全人的ケアの実践を理解する	(未定) ※3	1・2		4	R
【選択演習科目※2】 事前課題+スクーリング3日間受講+事後レポート提出で単位修得 2 単位以上選択履修						
心理学的な支援と応用演習		選択講義科目のそれぞれの心理学的領域に対応した演習科目であり、スクーリングを通して自らの問題意識、研究テーマを深めるものである。心理学的支援の実例等に触れながら心理学の応用可能性について学ぶ。この演習科目は特別研究へつながるものである。それぞれの心理学領域での研究対象はおおむね以下のようなものである。				
心理学的な支援と応用演習 (発達心理学)	発達心理学の知見を子どもの養育とその支援に活用する	平川昌宏	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (学校・教育心理学)	学校臨床の起因と解決方法を考察する	中村恵子	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (社会心理学)	社会心理学の観点から現代社会における諸問題の生起メカニズムとその解決法を考える	吉田綾乃	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (臨床心理学)	心理面接法の理論と実践 ―事例研究法を中心に―	武村尊生	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (健康心理学)	行動変容を促進する効果的な方法について考える	中村 修	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (司法・犯罪心理学)	司法・犯罪心理学の知見と臨床心理学の方法による人間理解と支援	小林万洋	1・2		2	SR
心理学的な支援と応用演習 (高齢者心理学)	加齢による心理的变化、認知症のアセスメント、支援方法と支援にあたる態度と高齢者の心理学的研究方法を理解する	(未定) ※3	1・2		2	SR

※1 修士論文を作成する前年度 (通常 1 年目) に単位を修得する必要があります。

※2 演習科目は同じ分野の講義科目を履修し特別研究 (論文作成) に結びつけます。

※3 2027 年度に教員の変更を予定しています。